

「市の財政状況と経営改革」住民説明会会議録

1 会議の名称	「市の財政状況と経営改革」住民説明会
2 開催日時	平成 26 年 10 月 27 日 (月) 19 時 00 分～21 時 05 分
3 開催場所	佐貫コミュニティセンター
4 審議等事項	持続可能な行政運営に向けて
5 出席者名	(説明員) 佐久間市長、高橋副市長、小泉総務部長、 刈込企画財政部長 (事務局) 小柴行政管理課長、重城財政課長 (司会) 宇山防災課長
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第 23 条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	103 人 (定員 人)
9 所管課	総務部行政管理課行革推進係 電話 0439-80-1211
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

「市の財政状況と経営改革」に係る住民説明会 会議録

発言者	発言内容
防災課長	<p>皆さんこんばんは。定刻となりましたので、始めさせていただきます。</p> <p>本日は、大変お忙しいなか、説明会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>ただ今から市の財政状況と経営改革に係る住民説明会を開催いたします。</p> <p>今回の説明会につきましては、先の新聞・テレビ等の報道について、改めて市民の皆さまにお伝えすることを目的として、開催するものでございます。</p> <p>次に、本日の説明員を紹介させていただきます。</p> <p>市長の佐久間清治でございます。</p> <p>副市長の高橋恭市でございます。</p> <p>経営改革等を主管する総務部長の小泉義行でございます。</p> <p>財政運営等を主管する企画財政部長の刈込幹夫でございます。</p> <p>申し遅れましたが、私は、本日の司会進行を務めます総務部防災課の宇山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>次に、説明資料がお手元にあるか確認をお願いいたします。大丈夫でしょうか？</p> <p>また、ご質問につきましては、市長以下説明員の説明の後にお受けしますので、あらかじめご了承をお願いいたします。</p> <p>なお、説明を含め、一応の終了時刻の目安を午後9時とさせていただきますと思います。状況により判断させていただきますので、ご了承いただきたいと思います。</p> <p>それでは、始めに市長から説明を申し上げます。</p>
市長	<p>皆さんお疲れのところ、また、本来であればお寛ぎの時間にご参集いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>この度、富津市の財政状況につきまして、新聞、ラジオ等の報道、そして、インターネットの記事等を通して、住民の皆さん方にご不安とご心配をおかけいたしましたことにつきまして、改めて説明を申し上げます。</p> <p>失礼して、座って説明させていただきます。</p> <p>まず、皆さんに正確にお知らせしなければならないのは、富津市は、これまで赤字を一度も出したことはございませんし、また現在、赤字になっているわけではありません。ただ、財政調整基金を充当しているのだから赤字だというご意見もいただきました。</p> <p>しかし、何としても、破たんをさせません。</p> <p>今回、記者発表させていただきましたのは、このまま何もせず行政運営を続けていくと、財政状況は赤字になり、5年後に財政破たんしてしまう可能性があるということでございます。</p> <p>富津市では、これまで安全・安心のための事業を優先して行ってきたこと、また、年々増加する社会保障費、あるいは、税収の減少など</p>

によります収支不足が見込まれるなかでその財源不足を補うため、市の貯金であります財政調整基金を取り崩して参りました。

富津市の財政状況がこれまでと大きく違うのは、この財政調整基金が底をつき、平成 27 年度以降の赤字決算が現実のものとなったこととございます。

お手元に配布いたしました資料中段左の「収支見込みのポイント」をご覧ください。

このままでいきますと、平成 27 年度から 31 年度までの 5 年間の財源不足額は 28 億円、平成 30 年度には積み重なった赤字額が 22 億円となり、財政再生団体となる可能性のある極めて厳しい見込みであります。

財源不足を補うための財政調整基金残高は、わずか 2 億円であります。

これを従前の財政収支改善策や、単年度の予算査定を中心とした歳出削減などの取り組みだけでは、この状況を克服することは困難であります。

そのために、これまでの財政運営だけに目を向けた改革ではなく、行政運営全体を見直す経営改革を断行するものであります。

次に、資料最下段の四角の枠、経営改革内容をご覧ください。

これまで皆さんから問い合わせをいただいておりますが、基本的に住民サービスは適正に維持して参ります。

まず、「①将来に向けての財政基準の作成及び実行」ですが、ここにお示ししました取組みを中心とした経営改革のための具体的なプランを策定するとともに、これまで財政調整基金を取り崩して財源としてきた富津市の財政運営を反省し、当該年度の歳入をもって歳出を賄うなど財政規律を厳格化して参りたいと考えております。

次に、「②公共施設の見直し」ですが、現在の危機的な財政状況を招いた大きな要因は、多くの公共施設を建設する際に、財源とした起債の償還額とその維持管理費の増大にあるといえます。市として真に必要な施設だけを将来世代に良好な状態で残し、それ以外の利用度の低い施設や、維持管理費の高い施設などにつきましては、売却や広域化などを積極的に進めて参りたいと考えております。

次に、「③事務事業の聖域なき抜本的な見直し」、「1 税収の確保」ですが、今後、税収の増加が見込まれない状況のなか、引き続き、滞納処分等により税負担の公平性の確保をして参りたいと考えます。

「2 職員数の削減」ですが、現在の危機的な財政状況を回避するには、まず、内部経費を削減することに全力を尽くさなければなりません。歳出の大きな部分を占めます「人件費」の割合を削減することは当然であり、職員数の大幅な削減を実行して参りたいと考えております。

「3 行政サービスの見直し」であります。サービス水準を維持しながら、公共として将来にわたって提供すべきサービスの範囲はどこまでか、あらためて考える時期に来ていると思います。民間に任せべき事務も多くなってきておりますので、サービス提供のあり方は多

様化しておりますし、公共の直接行うべき範囲、民間に委ねるべき範囲を考えあわせ見直していきたいと考えております。

「4 受益者負担の見直し」ですが、行政が、特定の方を対象とし、サービスの給付をする場合、無料ないし過度に低廉な料金で提供することは、公平性の観点から望ましいものではないと考えられます。行政サービスのコスト負担について、どこまでを「受益者負担」とするのか、見直して参りたいと考えております。

「5 民間活力の活用」ですが、行政サービスを受ける住民の皆さんにとっては、サービスの質が保証されることが一番重要であり、それが担保されれば、民間が供給する方が効率的である場合が多く見られます。行政サービスのなかでも、民営化・民間委託化が可能な分野は、費用対効果を考慮し、積極的に推進し、効率的なサービス提供を図って参りたいと考えております。

次に、資料下段右の「富津市経営改革会議」をご覧ください。

ただ今申し上げました、これら経営改革の内容を話し合うため、有識者で構成する「富津市経営改革会議」を設置いたしました。

今月 31 日の第 1 回会議をはじめといたしまして、議論していただくこととなっております。

最後に、この経営改革につきましては、私が先頭に立ち、職員一丸となって断行して参ります。

皆さまの更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、説明とさせていただきます。

次に、これまでの説明会での主な質疑内容につきまして、ご報告させていただきます。皆さんの方に資料がございません。申し訳ありませんが、お聞きいただきたいと思います。

まず、今回の報道関係につきまして、「どうして夕張市と同じや破たんの報道が出たのか」、ということですが、先ほども申し上げましたとおり、財政調整基金残高が、底をついたことから、3 か月ごとに定例記者会見を開催しておりますが、8 月 29 日の定例記者会見におきまして、経営改革の取り組みのなかで、中期収支見込みを発表いたしました。

この説明では夕張のようになります、破たんしますというような記者発表をしたわけではございません。このまま何もしなければ、5 年後には財政再生団体のレベルに達してしまうので、今の段階で抜本的な改革を実行すると発表いたしました。その際、財政再生団体の説明で、夕張市を例にしてお話ししたのは事実でございます。これが報道機関によりまして特別にクローズアップされたところであります。

次に、「イメージダウン回復の戦略」ということですが、できるだけ早く財源不足を解消し、そのことを住民の皆さまにお知らせできるよう、経営改革を断行して参ります。この間につきましても、改善状況をお知らせして参ります。

次に、財政状況につきまして、「身の丈にあったというのはどういう意味か」ということですが、歳入の一般財源の規模をもって、すべての経費を賄うということでございます。具体的には、

中期収支見込みで見込んでおります一般財源 110 億円程度を見込んで
いるところでございます。

次に、「固定資産税が減少するのはわかっていたのではないか」「計
画の段階で先が見えなかったのか」ということでございます。これま
で市では 5 か年計画をはじめとしまして、さまざまな計画を策定して
参りました。その間にリーマンショックや東日本大震災、また、障害
者自立支援法など国の制度の相次ぐ見直し等の特殊要因があったに
いたしましても、その計画が結果的に過大であったことは、真摯に反省
しております。

次に、「市税の滞納額も財政悪化の要因ではないか、徴収を強化すべ
きではないか」ということでございますが、これにつきましても今ま
でも増して、滞納処分を強化して参ります。

次に、「国保などの社会保障費の増加は県や市町村の問題ではなく、
国への提言を怠っているのではないか」ということでございますが、
これにつきましては、全国市長会などをおしまして、強く国へ申し
出ているところでございます。

次に、経営改革関係につきまして「経営改革での具体的な見直し対
象」ということでございますが、これにつきましては、普通建設事業
費のうち未着手事業につきましては、例外なく見直しをして参ります。
また、着手済みの事業につきましても、その効果を再検討し、見直し
て参ります。

職員数につきましては、抜本的にスリム化いたします。

公共施設は、適正な水準に保ちます。

財政状況が厳しいからと言って、介護、国保のような法定サービス
は安定した状態で運営を行って参ります。

個人の市民税・固定資産税などの普通税を引き上げるようなことは
当然としていたしません。

次に、「学校統廃合にこれだけ時間を要している状況で、経営改革を
短期間で断行できるのか、全てをゼロベースで見直さなければならない
」ということでございますが、これにつきましては、関豊小、環小
が来年度から合併になります。市の方の意見だけでは進められませ
んけれども、現在教育委員会・教育部の方で計画によって進めており
ます、他の学校につきましても、順次地元のご意見を伺いながら、進
めていきたいと考えております。

また、経営改革は短期的なもの、中・長期的なものとは区別して進
める必要があります。経営改革会議はこれら市の考え方を提示してそれ
ぞれ意見をもらうかたちとなります。

次に、「改革にあたっての削減目標額は」ということですが、まずは、
来年度予算で 3 億円の赤字を解消する、最終的に、今後 5 年間で 28 億
円の赤字を解消するとともに、災害等に備え、できるだけ財政調整基
金を積み増して参ります。

次に、「どんな事業をやめるのかははっきり示してほしい」ということ
でございますが、経営改革プランを作成するなかで、また、経営改革
会議で議論していただきながら、それを示していきたいと考えており

	<p>ます。</p> <p>次に、「特別職報酬と一般職の給与削減は実施しないのか」ということ でございます。現在私が 15%、副市長が 14%、教育長が 13%の報酬 削減をしております。また一般職は 4%の給与削減などを実施して おりますけれども、特別職につきましては、更なる見直しを実施して 参ります。</p> <p>次に、「震災時の状況から、職員数削減以前に事務事業の見直しを優 先すべきではないか」ということでございますが、当然、事務事業の 見直しは実行して参りますが、並行して我々が標準と考える職員数 まで削減を実行して参ります。</p> <p>次に、「経営改革会議はどのような人で何名か」ということござい ますけれども、大学教授 2 人、公認会計士 1 人、会社社長 1 人、県庁 職員 O B 1 人の合計 5 人であります。</p> <p>次に、「経営改革会議委員に市民を入れないのはなぜか」ということ でございますけれども、客観的な視点から富津市の状況について議論 していただくことを考えまして、今回は、外部有識者のただ今申し上 げました、大学教授をはじめとする、5 人の委員構成といたしました。</p> <p>次に、その他について、「議会の取り組みは」ということございま すが、議会関係につきましては、執行部とは別に、議会自ら、いろい ろな角度からの改革を検討されているというふうにお聞きしている ところでございます。</p> <p>次に、「市民との対話の機会が少ない」というお話でございました。 これにつきましては、過去対話集会は何度か実施して参りました。今 後も、他のテーマを含めまして、機会を作って対話集会を進めてい きたいと考えております。</p> <p>次に、「市長の決意表明は」ということでございますけれども、現在 の財政状況を回復させることが私の使命であります。私の任期中で できるだけ早く住民の皆さんにより報告ができるよう、経営改革を 断行して参ります。</p> <p>破たんはさせません。</p> <p>以上でご報告を終わらせていただきます。よろしくお願ひいたしま す。</p>
<p>防災課長</p>	<p>続きまして、補足説明を副市長及び両部長から申し上げます。</p>
<p>副市長</p>	<p>改めまして皆さまこんばんは。</p> <p>本日は、お仕事が終わり大変お疲れのところ、このように大勢の皆 さまに、お集まりいただきまして、まずは御礼申し上げます。</p> <p>また、私どもの経営改革に関する記者会見につきまして、そのマス コミ報道で、皆さま方に大変なご不安をお与えしたことににつきまして、 心からお詫びを申し上げます。</p> <p>大変失礼ですが、私も説明については着座にて進めさせていただ きたいと思ひます。</p> <p>ただ今、市長が申し上げます経営改革の取り組みにつきましては、</p>

企画財政部長	<p>市長の命を受けまして、私の指示により、市役所全庁を挙げ、取り組みを始めさせていただいております。市役所内部に関することにつきましては、あらゆる事務事業を広い視野と、あらゆる可能性を諦めることなく、見直し、確認することを指示いたしますとともに、職員の提案や意見も取り入れ、作業に入っております。また、今後につきましては、経営改革会議のご意見を伺いながら、経営改革全般の方向性を取りまとめて参りたいと考えております。</p> <p>差し迫りまして来年度予算につきましてでございますが、できるものから即実行して参ります。</p> <p>本日は、この後、財政状況につきましては、企画財政部長から、これまでの行政改革の取り組みにつきましては、総務部長から説明をいたしますので、お聞き取りいただきますよう、お願い申し上げます。</p> <p>皆さまには、今後の経営改革断行にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>市長から「市の財政状況」について説明いたしたところでございますが、私からは「このような財政状況に至った原因」につきまして、補足させていただきます。失礼いたしまして着席させていただきます。</p> <p>本市では、平成 11 年度にそれ以前の事業の借入金によりまして、債務が増大したことから「財政非常事態宣言」をいたしました。</p> <p>そこで、債務を減少させ危機的な状況を回避するため、同じく平成 11 年に「財政健全化計画」を策定しまして、これに基づき財政の健全化に向けて計画を実行し、その効果により債務が減少したことから、平成 17 年度になりますが、「財政非常事態宣言」を解除しまして、その後もそこで定めた、財政収支改善策を恒久的なものとして取り組んできたところであります。</p> <p>しかしながら、昭和 60 年から続く生産年齢人口の減少や、また長引く景気の低迷によりまして個人・法人市民税の減収や、また、本市の税収の根幹であります、固定資産税の大幅な減収に加えまして、生活保護者の増加や、高齢化の進行によります障がい者や、介護を必要とする方が増加し、扶助費などが、毎年増え続けまして、年々財政運営は厳しさを増しております。</p> <p>このような状況のなかで、歳入の減少に対応しました職員の定員管理を中心といたします総人件費の抑制も不十分であったこと、また、近年、財政調整基金、市の貯金でございますこれを活用して、総合計画をはじめといたします、様々な計画に基づく事業を行ってきたところですが、その計画が結果的に過大であったことも、今般の状況に至った原因と考えております。</p> <p>最後になりますが、今回公表いたしました、来年度の財源不足額は、3 億円であります。夕張市の場合は、不足額が当市の 200 倍でございますので、当市とはまったく異なり、比較にはなりません。</p> <p>経営改革の実行によりまして、十分回復可能な数字であることをご理解いただければと思います。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
--------	--

<p>総務部長</p>	<p>よろしく願いいたします。</p> <p>私からは、今まで取り組んで参りました財政健全化対策、財政収支改善策、行財政改革につきましてご説明をさせていただきます。着座にて失礼させていただきます。</p> <p>まず、財政健全化対策でございますが、平成 5 年度から財政非常事態宣言の平成 16 年度まで実施して参りました。また、財政非常事態宣言を解除いたしました、平成 17 年度からは財政収支改善策を実施して参りました。</p> <p>これに並行いたしまして、行財政改革を、平成 11 年度から 15 年度までを第一次とし、平成 16 年度から 21 年度までを第二次、平成 22 年度から 24 年度までを第三次とし推進をして参りました。</p> <p>まず、歳入確保策といたしまして、各種基金の設置目的に沿った処分や、未利用地の売却処分などがございます。未利用地の売却処分につきましては、現在も引き続き行っているところでございます。</p> <p>次に、人件費の削減といたしまして、職員数の削減、特別職の報酬カットや職員給与の昇給延伸などの抑制、手当の引下げ、議員等の定数削減や手当の見直し、学校用務員や調理場調理員の非常勤化などがございます。</p> <p>次に、維持管理費などの削減といたしまして、市営バスの廃止や、公共借地の見直しなどがございます。</p> <p>最後に、補助金や交付金などの削減といたしまして、補助金等の見直しを実施して参りました。</p> <p>これら総合計といたしまして約 117 億円の削減をいたしたところでございます。</p> <p>非常に簡単ではございますが、以上で説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
<p>防災課長</p>	<p>説明は終わりました。</p> <p>ご質問をお受けいたします。質問等ありましたら指名をさせていただきますので、挙手にてお願いいたします。係員がマイクを届けますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>(市民①-1)</p>	<p>マスコミ報道で、大変市民にご迷惑をかけるという言葉がありましたが、実際、この風評被害は、計り知れないと思います。この記者会見の文言はどのように決定されたのですか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>この発表は、議会前に開かれる定例記者会見のなかで、この中期収支見込みとそれに伴い経営改革を行う旨の説明を記者に行いました。内容は、市長以下の周知をもとに決定しております。</p>
<p>(市民①-2)</p>	<p>富津市の財政力指数は県内で 7 番目にもかかわらず、なぜ「破たん」や「夕張」と全国紙で言われるような事態になったのですか。そもそも、富津市のイメージが非常に落ちるような発表をする必要はあった</p>

	<p>のでしょうか。市内に住もうと思った人が、この発表でやめるケースがあると思います。まして、収支比率が県内最下位ではないのに、なぜこうなったのか教えてください。</p>
企画財政部長	<p>当市の財政力指数は 0.93 で、普通交付税算定のための指数となります。税金などの一般財源が人件費や扶助費といった固定的なものに 9割程度使われています。そのため財政構造的には、柔軟に対応する余地がない状況です。</p>
(市民①-3)	<p>私が感じたことと非常にずれがあります。「富津市大丈夫ですか。」という非常に悪い風評が市民以外にも広まっていますので、マスコミ報道で発生した障害についてお聞きしたかったところです。</p>
(市民②)	<p>中期収支見込みについて、特別会計を含むとどうなりますか。</p>
企画財政部長	<p>この資料には一般会計分を出しております。特別会計の方は収支が保たれるだろうということで、一般会計分のみ掲載しています。</p>
(市民③-1)	<p>税の滞納額が約 8 億円あるようですが、過去 10 年間に時効を迎えた滞納額はどのくらいありますか。</p>
企画財政部長	<p>過去分については資料がありません。</p>
(市民③-2)	<p>では、埋蔵金はいっぱいあるということですね。それが取れないのは市職員の怠慢だと思います。事業主だったら倒産します。税金も取れずに経営改革ができますか。</p>
企画財政部長	<p>差押を含めた滞納処分の強化と、徴収率向上に努めます。</p>
(市民③-3)	<p>集金ができないということは市職員全員の責任ではないですか。その分が入らないのであれば、給与を削減するべきです。何のための職員ですか。</p>
企画財政部長	<p>納税課職員が随時行っています。</p>
(市民③-4)	<p>時効になる分の扱いを知りたい。</p>
企画財政部長	<p>不納欠損扱いで、決算上に公表しています。</p>
(市民③-5)	<p>一般財源から保険などにもお金を回していると思いますがどうですか。</p>
企画財政部長	<p>現年度分の収入のなかで、他の事業にお金を充てながら、予算を執行しています。</p>

<p>(市民③-6)</p>	<p>富津市になって 40 年以上過ぎていますが、取り立てができないのはいつまで経っても同じです。</p> <p>市長が変わった時に、仕事に対する姿勢が全くなっていません。毎年今まで誰が責任とっているのですか。市民のための仕事ではないのですか。この体たらくでは赤字や破たんは当たり前です。まともな人が馬鹿を見るような状態では、若い人がみんな出ていきますよ。</p>
<p>(市民④-1)</p>	<p>この市に来て約 30 年になります。財政再生団体について、都が指定されたと記憶していますが、現在の財政再生団体の数と、どのように再生を進めているのか教えてください。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>今回の資料に、財政再生団体になった場合の記載があります。行財政運営が国の管理下に置かれ、市の判断で行っていた事業が制限され、手数料の値上げやサービス水準の低下など、市民に大きな影響が出ます。</p> <p>平成 27 年度の約 3 億円の赤字見込みに始まり、平成 30 年度には累積が約 22 億円となる見込みとなっていますが、一般財源に対する赤字比率が 20%を超えたら財政再生団体になることが法律で定められています。あくまで、このまま推移したらの見込みですが、平成 30 年度には実質赤字比率が 21%となり、財政再生団体となる見込みです。全国では夕張市が唯一の例です。</p>
<p>(市民④-2)</p>	<p>東京都が指定されて、美濃部都知事の時代に解除されたと記憶していますが、間違っていたらすみません。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>過去の事例では、平成 14～15 年度に千葉県が赤字になったことは把握しています。</p>
<p>(市民④-3)</p>	<p>お聞きしたいのは、赤字になった自治体がどのように財政再建をしたかという経過です。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>国に財政再建計画を提出し、手数料などの引き上げやサービスの低下はありますが、その計画に基づいて財政再建に取り組むこととなります。</p>
<p>(市民④-4)</p>	<p>夕張市以外は、財政状況が改善したということですか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>財政再生団体になった事例が夕張市のみですが、現在、収支改善や財政再建に取り組んでいるところです。</p>
<p>(市民④-5)</p>	<p>国の財政再生の所管はどこになりますか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>まず、市議会の議決を経て財政再建計画を総務省に提出し、適正で</p>

	<p>ない場合は勧告等による指導があります。</p>
(市民④-6)	<p>財政再生団体になった場合と、経営改革による抜本的な見直しの内容は結局同じではないですか。</p>
企画財政部長	<p>経営改革による抜本的な見直しは、市自らの取り組みとして赤字圧縮のため取り組むものです。</p>
(市民④-7)	<p>経営改革会議に市の職員が入っていませんが、どんなことを任せますか。また、構成員の選定方法や市に対する理解度はどの程度ですか。</p>
総務部長	<p>そのうち経営者の方は市内出身です。市の現状の把握については、事前に数字などの資料をお渡しし、第 1 回会議で説明します。その際に、市内の現場を回っていただく予定です。</p> <p>また、「国の管理下」の状態については、再建計画を国に提出・承認してもらう必要があるということで、国の命令に従う形で業務を行うわけではありません。ただし、自主的な再建計画と違い、国に提出する再建計画の場合は、市民の意見が入る余地はなくなります。</p>
(市民④-8)	<p>手続きではなく、それぞれの再建計画による内容の違いを知りたいです。議論する余地があるということは、聖域があるということになりませんか。また、現段階の時点で総務省にアドバイスは受けられませんか。</p>
総務部長	<p>現段階では、県の市町村課で財政状況のヒアリングや、予算・決算のやり取りをしています。基本的に、国が直接、市町村の経営に関与はしません。</p> <p>なお、これまでも行財政改革の審議会などを設けていましたが、この状況になりましたので、客観的な意見をもとに改革の内容を決め、それを市民の皆さんにもお伺いします。ただし、その時に市民の意見が入って逆戻りしないような方法は考えています。</p>
(市民④-9)	<p>この危機的な現状は、部長さんほか市幹部の方がお分かりだと思います。なので、経営改革会議や国に丸投げするのではなく、役所内で一生懸命考え、自力で立て直す方が応援できます。</p>
(市民⑤-1)	<p>社会保障費の増加を経営圧迫の根拠とすることに疑問を感じます。</p> <p>今回の赤字見込みの報道も信用できません。5 年前も同様の赤字見込みを出していましたが、「財政非常事態宣言」時も同様の見込みを根拠に発令しましたが、のちに解除となりました。いざ、決算書を見ると毎年黒字で、見込みとまるで違う結果が出るのはなぜですか。もっとちゃんと精査してほしい。</p> <p>財政調整基金にしても、予算時の金額よりも決算時の方が多いです。基金は多いに越したことはないですが、見込みの精度が甘いのではな</p>

	<p>いですか。</p> <p>市は「金がない」とよく言っていますが、財政力指数が高いなかで人件費の割合が高い状態です。国保税も県内で一番高額です。一方で図書館はいまだにありません。では、本当に経営改革に取り組んでいたか、今の市役所、かずさアカデミアパークの破たん、青木の区画整理と、ハコモノ中心の財政運営をしてきたことを本当に反省してほしいです。</p> <p>「赤字」の見込みとのことですが、確かに市の職員の給与も下がっています。個人的には職員給与が高いとは思いませんし、普通建設費も下がっています。しかし、歳入が減少傾向であれば、例えば個人なら飲み代や化粧品を先に削るはずで、子どもやお年寄りの小遣いは減らせません。それを考えれば、十何億円もかかるバスストップなどはストップや延期をすべきだと思います。</p> <p>安易に、職員の給与や数を減らすのは市民受けが良くて簡単ですが、そういうのは後で行う手段だと思います。住民サービスに手をつけるのは本当に最後です。そうでないと市内に人が来なくなってしまいます。</p> <p>あと、「赤字だ。」といいつつ結局黒字になるような見込みを出していると、オオカミ少年みたいに信頼されなくなってしまいます。</p>
<p>(市民⑥-1)</p>	<p>「聖域なき抜本的な見直し」を実行するにあたり、議員を通じての請願・陳情は、行政的には優先度が高くなると思います。それを含め、外部の有識者に見直ししてもらうのは分かりますが、地域に本当に困っている事情がある場合は、行政が責任を持って暮らしやすい富津市作りをしてほしいです。</p> <p>また、税込確保のことですが、先ほどの話にもあった一般的な人件費削減にあたり、職員の質が下がるようなことがあれば、サービスが行き届かない結果もあり得ます。これはあってはいけないことです。</p> <p>また、道路の計画は先延ばしにすべきだという意見もありますが、道幅の狭い場所が多い富津市の道路状況が企業進出を阻害している、安全に児童が通学できる道路が少ないなど、長い目で見ると道路状況も改善すべき課題です。順序を決めて改善に取り組むことで、企業誘致を進め、法人からの税込確保するといった、行政の取り組みの方向性が今の時点で示せるのであればお願いします。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>新富で県企業庁と行っている企業誘致は、現在 53 社が入っています。約 97%が埋まったなかで、約 10 ヘクタール残っていますので、引き続き誘致に取り組めます。</p>
<p>(市民⑥-2)</p>	<p>今の回答は埋立地の内容だと思いますが、各地区それぞれの魅力があると思います。また、君津より北は、鉄道も道路もよくできていますが、更に下るとホームに屋根もないような状況で、君津・木更津に移ってしまう若い世代が多いです。やはり、若い人たちが住みやすいまちをどのように作るかははっきりしてほしいです。高齢化のなかで、</p>

	<p>福祉サービスがなかなか削れないとは思いますが、若い人にとっての利便性、子どものための安全や図書館などを構築しないと、出てしまう人の方が多くなってしまいます。地域の魅力を、地域と行政が一体となって育ててもらいたい。そのためには、自前事業ではなく、補助事業でもいいと思います。地域の収益が上がれば税収も上がって経営改革の趣旨に見合った結果が出ると思います。</p>
副市長	<p>すみませんが、先ほどの国保に関する質問などについて、市長から回答があります。</p>
市長	<p>これまで、安全・安心に関する事業を優先して行ったことと、社会保障費が増大したことについてお話いたしました。国保や介護については、他の住民説明会でも説明したとおり、この財政状況ではありますが、安定的な運営を行って参ります。</p>
(市民⑤-2)	<p>国保税が一番高いこともあって、国保に関してはお金が余っているはずですので、他の会計と一緒に考えないでほしいです。また、先ほども言いましたが、過去の赤字になるという収支見込みと、実際の 44 億円の黒字となった決算とで、大きなずれがあっては今回の発表も信用できません。</p>
企画財政部長	<p>収支見込みは、公表する時の計画などに基づいて数値を出しています。財政調整基金に関しては、今年度末時点で 1 億 5,000 万を見込んでおり、今後は年度間の財源調整や災害などの不測の状況に備えるために積み増しが必要なところです。見込みに関しては税収に加えて、国の経済対策や交付金の状況から算出しています。平成 21 年度～25 年度の 44 億円の黒字というのは、各年度の黒字額の合計と思われませんが、実際の財政運営上、その年度の剰余・繰越金は翌年度の財政に組み入れられます。そのため、25 年度時点の決算の 4 億 9,000 万円が 5 年間の黒字額となります。</p>
(市民⑤-3)	<p>数字のずれもそうですが、「赤字になる。」と言うことで、市民サービスを切り捨てる口実になっていないかが心配です。</p>
企画財政部長	<p>特別職・一般職の給与を削減して、ようやく 1,000 万円程度の黒字が確保できるだろうというなかで、財政調整基金が不足しているのが今の状況です。</p>
(市民⑦)	<p>市民の不安要因として、細かい数字の内訳が分からないこともあります。具体的な出費が市ホームページなどでわかるようにしてほしいです。先ほどの職員給与についても削減額がわかりません。赤字を黒字にして財政再生団体を回避するとのことですが、潰れる会社は直前まで「安心してください。」と言いながら、いざその場面になると「あとは弁護士にでも聞いてくれ。」というのが定番です。その事態を避け</p>

	<p>るとのことですが、市に財政運営を任せられるようにするためにも、具体的な数字の提示をお願いします。</p> <p>また、ふるさと納税について、これによって大きな税収をあげている自治体もありますが、現状の富津市にはその手立てがありません。ふるさと納税は、その自治体・民間企業双方に大きなメリットがあります。来年度には住民税引き上げの話もあるなか、ふるさと納税のように今は税収に結び付いていない税源があります。現在は検討しているとのことですが、遅いくらいだと思います。</p> <p>有識者会議については、市の提案に意見または承認するならともかく、先ほどの説明では丸投げになる気がします。例えば福祉なら、65歳になったのでマッサージの補助券をもらいに行ったらサービス改定でもらえませんでした。今後は75歳以上の低所得者に補助とのことですが、そのレベルの所得では少しの補助では、結局マッサージは受けられません。福祉タクシーも、実際に使っている人に聞いて初めて存在を知った上に、後から行くと個人情報関係で案内できなかったという場面があり、それも今年度で廃止となりました。市長は、「福祉サービスは変わらない」といいますが、細かいところでは弱者いじめのサービス削減がすでに始まっています。この状況でサービス削減をすると、市内外の人が「ああ、やっぱりね。」という受け止め方になってしまいます。本当に必要などころにお金を出すためにも、抽象的な数字ではなく、具体的な数字を明らかにしてください。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>事業を見直すなかで、市単独で実施しているものについて、費用対効果から検討いたします。また、ふるさと納税についての取り組みは遅れていました。現在、市商工会などにもちかけて、できるだけ早く実行したいと考えております。タクシー券については、市単独で行っているなかで、事業の効果効率性、障害者の自立支援法の内容と重複することから廃止しました。具体的な削減金額は、29万4,000円です。</p>
<p>(市民⑧)</p>	<p>説明を聞いた印象として、市執行部の皆さんの熱意が足りないように感じます。市独自の見方も欠けているように思います。財政危機に至る経緯も、内容は他の自治体と変わらず、「富津市はここがまずかった。」という話はありません。君津や木更津は財政状況を鑑みて建物の建設を見送りました。しかし、富津は比較的新しい市庁舎が建っていますし、最近も新規の建物を建設しています。この状況でなぜ建設に踏み切ったのか疑問を感じます。そこを反省しないと魅力的な富津市にはならないと思います。</p> <p>また、削減を実行するとのことですが、もしその年度の削減が間に合わなかった場合は、次の年度にさらに実行する手立てはありますか。もう「今回もできなかった」では済まされない状況です。</p>
<p>市長</p>	<p>消防防災センターは、前の消防本部は耐震力がなく、いつ建物が崩壊してもおかしくないとの判断から、市民の安全・安心と財産を守るための拠点を確保するために市役所そばに建て替えました。</p>

<p>(市民⑨)</p>	<p>来年度の赤字をゼロにするよう各職員に通知しております。来年度以降については、短期で必要なものと中・長期的なもので振り分けをして判断するところであります。来年度の赤字をゼロにできれば、それ以降の数字が減ってきますので、対応していきたいと思います。</p> <p>まず、定例記者会見を通じて報道されたことについて、唐突ではないかと感じました。近隣市では、定例記者会見を毎月実施しているようですので、回数を増やすことで、うまく情報を出していく必要があると思います。</p> <p>2つ目に、人口が減って高齢化が進むなかで、企業誘致や税収確保のためにも、若い人が流出しないような取り組みを重点的に取り組んでほしいです。これがないと先に明かりが見えてこないと思います。他の自治体と同じことをやっても流出は止められませんので、富津市独自のものを作り出してほしいです。東京から近い立地も生かして頑張ってもらいたいです。</p> <p>3つ目に、給料削減となれば、自分がその立場なら生計を立てるときに不安を覚えます。例えば、5年間など期間を設けて我慢する方法もあるのではないかと思います。それによって財政再建ができたなら戻すというやり方のほうが職員の意欲も増すと思います。また、より積極的に仕事ができる方の登用を考える必要があると思います。</p> <p>5年後を見据えたときに、出費がかさむばかりで、「できることなら逃げ出したいが逃げ出せない。」という人のことも考えて頑張ってください。</p>
<p>(市民⑩)</p>	<p>歳入については、その構造に大きな変化はないと思います。しかし、人口減少で税収は減少傾向が続くと思いますので、歳出の検討が大きな課題となります。よく水道部の近くを通りますが、あれは昭和 40 年代に貯水池とともに建設されたもので、さらに小久保ダムもできたわけですが、その小久保ダムは最近機能が停止しました。また、水道部にある貯水池は、重機を入れて清掃をしているようですが、水が貯まっているのを見た記憶がありません。利活用されていない貯水池・小久保ダムについて議会でも話題になったことはなかったと思います。</p> <p>また、海岸に箱物つきの運動場がありますが、これも市の財政に見合った適正な運用が必要だと思います。</p> <p>それから、テレビで館山市が人件費の比較対象に上がっていましたが、人口がほぼ同じであるということで、財政再建を進めるにはそれを参考に数字を決める必要があると思います。</p>
<p>総務部長</p>	<p>人件費について、館山市の例に関しては、消防職員が市職員ではないので、数字に含まれておりません。富津市で消防を別扱いにして数字を見た場合は、人件費・人数ともに館山市と大きな差はありません。そのため、同じ条件で、富津市の人件費が多いというわけではありません。</p>

<p>(市民⑪)</p>	<p>笹毛に住んでいますが、周りの高齢化は日に日に進んでいます。そういう人たちの福祉サービスが削られてしまうという話が上がっていると聞きましたが、若い時に頑張った人たちを動けなくなったら切り捨ててしまうような方向に市が動いているように感じます。先ほどのタクシー券の廃止などで実感されている人もいます。人件費削減も先に目につくことだと思いますが、皆さんからは市民の税金を使わせていただいているという緊張感や差し迫った財政状況であるという緊張感が見受けられません。そのため、実はすでに手立てがあるから余裕があるのではないかと勘繰ってしまいます。</p>
<p>(市民⑫)</p>	<p>まず、水道事業を含む市の借入金を教えてください。 もう一点、昨年度から始まった新規に定住した方への目玉である定住奨励制度について、今後 5 年間継続して行っていくのかお聞きします。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>定住奨励制度については、支払った固定資産税から、最高 18 万円を 7 年間で計 126 万円分を交付しております。期限付きの制度ですので、平成 27 年 1 月 1 日までに新規に住宅を持った方を対象としています。今年で 2 年目となりますので、事業の効果を見ながら継続するかの判断をしたいと思えます。 また、借入は、水道事業が約 48 億円、市債は約 150 億円となります。</p>
<p>(市民⑬-1)</p>	<p>ある市議員のお話ですが、数年前に「このままでは、数年で破たんしますよ。」と市長におっしゃったようですが、協議会などはなかったとのことで、インターネットでも公開されています。</p>
<p>市長</p>	<p>それについては、その時の状況もありますが、すでに進行中のものは進めざるを得ませんでした。忠告・ご意見も重々受け止めており、今回の状況になったことを受けて、事務事業の見直し等も行って参りますので、必要なもの・取りやめるものを検討して参りたいと思えます。</p>
<p>(市民⑬-2)</p>	<p>市は常勤 500 人に臨時職員が約 100 人いるとのことですが、それだけの人数がいてできないのであれば、今後も同じではないですか。公務員は辞めてしまえば役目は終わりです。それを繰り返していけば全国で赤字ですよ。</p>
<p>市長</p>	<p>今までのやり方では赤字が止まらないので、やり方を変える必要があります。私と職員が一丸となり、また市民の皆さんのご協力を仰ぎながら経営改革を進めるところであります。</p>
<p>(市民⑬-3)</p>	<p>それならば大阪のように出直したいというお気持ちはありますか。また、選挙もボランティアでやったらどうですか。公約にしてください。</p>

市長	私は、任期のなかで、赤字ゼロで進めたいと申しあげました。選挙については、あと 2 年任期があるので、そのなかで考えるべきことだと思います。
(市民⑬-4)	前市長が退任した時、市の貯金はどの程度ありましたか。そこからいくら使いましたか。
企画財政部長	前市長退任時の財政調整基金は約 6 億 5,700 万円でした。
(市民⑬-5)	それでしたら、滞納整理を徹底すればすぐに集まりませんか。法律はよくわかりませんが、時効もなしにしたらどうですか。市の職員も怠けていると思います。
企画財政部長	滞納整理については、法律に則りながら、市民の皆さんの負担の公平性を兼ねてしっかり取り組んで参ります。
(市民⑬-6)	法律がどうのこうのではたちごっこですよ。
企画財政部長	滞納が発生しない工夫や差押処分も必要なことです。
(市民⑬-7)	40 数年もこの状況ですから市職員では無理だと思います。第三者機関にでも委託したらどうですか。これだから何やっても優柔不断です。富津は悪い意味で有名になってみんな出て行って姥捨山ですよ。今から若い人が住むには手遅れです。日本中の田舎は全部そうです。うまい話をしても誰も信用しません。できないことはできないと言ってください。人の面倒見なくていいですから自らの襟を正してください。
(市民⑭)	縮小に向かわず、新しい方向に進んでもらいたいです。今までのサービスをカットしてというのではなく、もっと魅力的な富津市になるように考えてほしいです。カットばかりでは魅力がなくなってしまいます。これを機会に魅力ある富津市づくりをしてほしいです。
防災課長	どうもありがとうございました。時間も大分経過してきましたので、この辺で閉会とさせていただきたいと思います。 閉会に当たりまして、市長よりご挨拶を申し上げます。
市長	今晚は、遅くまでご出席・ご参会いただきまして、ありがとうございました。いろいろとご指摘・ご意見賜りました。 魅力のある富津市にしようと、これから続けていかなければいけないというふうに考えているところでございます。また、イメージダウンしたものを、何とかイメージアップできるようにそれぞれ私も性根を据えて進めていきたいと考えております。 皆さま方には今まで以上にご理解・ご協力を賜りますようお願い申

防災課長	し上げ御礼にさせていただきます。 本日は、ありがとうございました。 以上で説明会を終了いたします。
------	---

以上